

2019年4月の大気大循環と世界の天候

大気大循環

500hPa 高度をみると、極渦はシベリア側と北米側に分裂した。北米～ユーラシア大陸北部で波列パターンが明瞭となり、ノルウェー海付近と東シベリアで正偏差となった。北太平洋西・中部の中緯度帯では帯状に負偏差となった。200hPa 風速をみると、偏西風はユーラシア大陸では南北に分流し、北太平洋西部では平年の位置と比べて南寄りを流れた。海面気圧をみると、スカンディナビア半島付近で正偏差、グリーンランドの南、中央シベリア、アリュースクの南で負偏差となった。850hPa 気温をみると、ヨーロッパ北部～グリーンランド、東シベリア、中国付近で高温偏差、日本の東海上で低温偏差となった。

熱帯の対流活動は、平年と比べて、インド洋赤道域の中部、日付変更線の西で活発、北インド洋西部、南シナ海～フィリピン、インドネシアの南海上、北太平洋中・東部、南太平洋西・中部の南緯10度帯付近で不活発だった。赤道季節内振動に伴う対流活発な位相は、下旬にインド洋～インドネシア付近を東進した。対流圏上層では、北インド洋東部で低気圧性循環偏差、北太平洋熱帯域の西部及び南太平洋の日付変更線付近で高気圧性循環偏差となった。対流圏下層では、北インド洋で低気圧性循環偏差、南シナ海～北太平洋東部の広い範囲で高気圧性循環偏差となった。海面気

圧は、赤道域では、広い範囲で正偏差となった。南方振動指数は+0.1だった。

世界の天候

世界の月平均気温偏差は+0.43℃（速報値）で、1891年の統計開始以降、2番目に高い値となった。4月の世界の平均気温は、上昇傾向が続いており、長期的な上昇率は約0.78℃/100年（速報値）である。

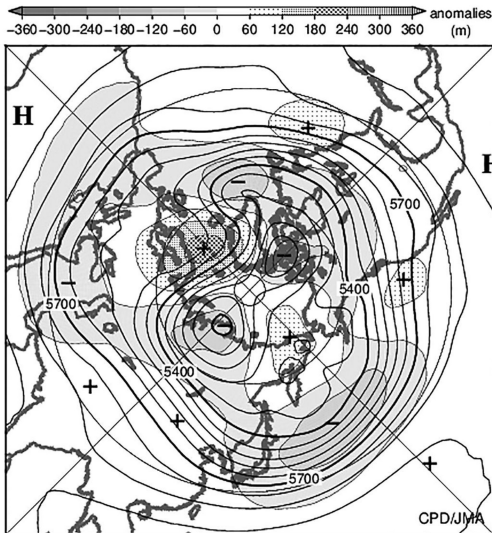
主な異常天候発生地域は次のとおり。

- 東シベリア北部、中国中部～北西部、東南アジア北西部及びその周辺、ノルウェー南部～英国北部、アイスランド及びその周辺、マダガスカル北部及びその周辺、アルゼンチン中部～チリ南部で異常高温となった。
- スペイン北西部～アルジェリア北西部、カナダ南東部～米国北東部で異常多雨、東アジア北東部及びその周辺、ロシア西部～ポーランドで異常少雨となった。

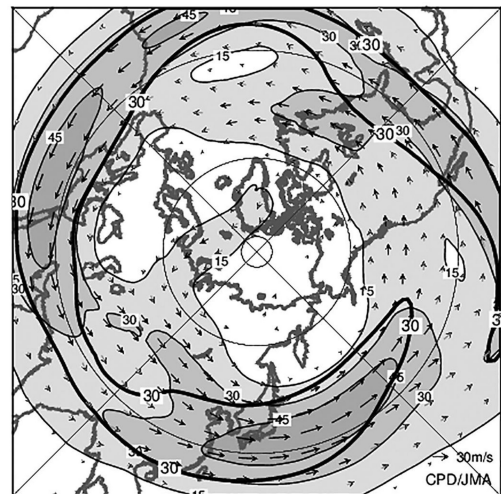
（気象庁 地球環境・海洋部 気候情報課）

※ より詳細な情報については、気象庁ホームページ「気候系監視速報」をご覧ください。

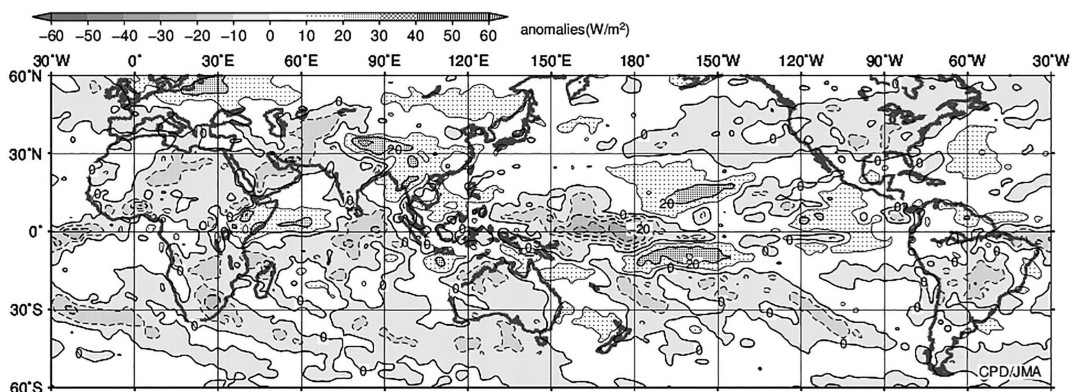
<https://www.data.jma.go.jp/gmd/cpd/diag/sokuho/index.html>



2019年4月の北半球月平均500hPa 高度及び平年偏差
等値線間隔は60m、陰影は平年偏差。平年値は1981～2010年の平均値。

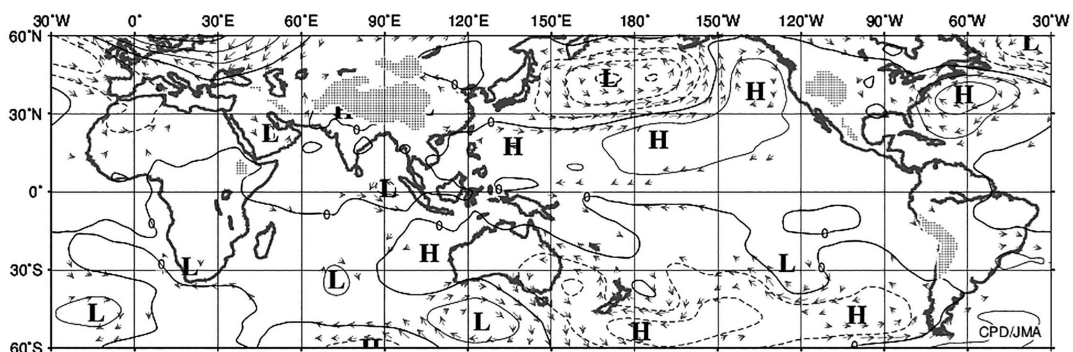


2019年4月の北半球月平均200hPa 風速及び風ベクトル
等値線間隔は15m/s、太実線は平年の風速で等値線間隔は30m/s。平年値は1981～2010年の平均値。



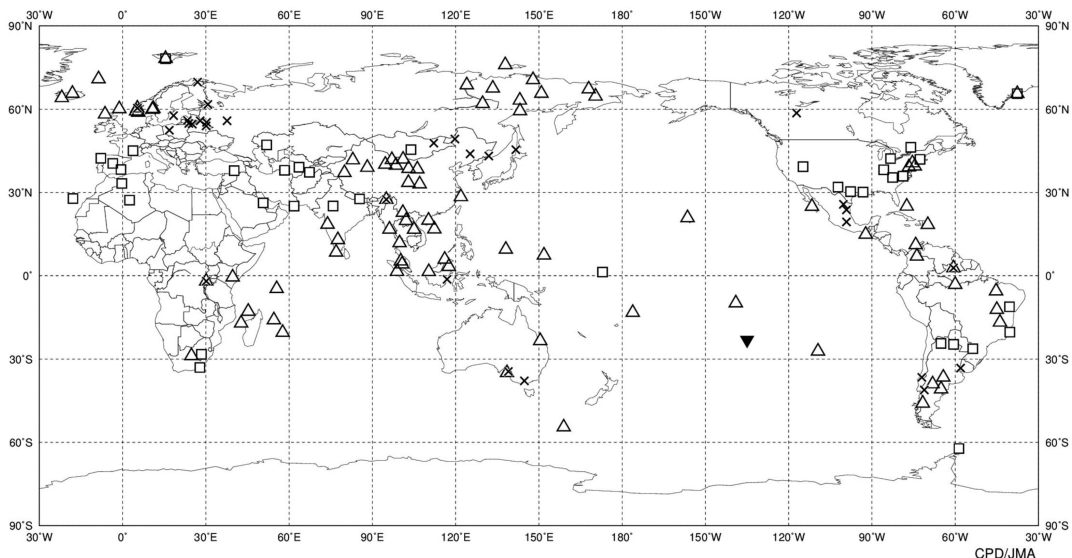
2019年4月の月平均外向き長波放射量年偏差

等値線間隔は 10W/m^2 で、値が小さいほど対流活動が活発であったと推測される。米国海洋大気庁 (NOAA) より提供されたデータを用いて作成。年偏差は1981~2010年の平均値。



2019年4月の月平均850hPa 流線関数年偏差及び風年偏差ベクトル

流線関数の偏差の等値線間隔は $2 \times 10^6\text{m}^2/\text{s}$ 。年偏差は1981~2010年の平均値。



2019年4月の世界の異常天候分布図 △異常高温 ▼異常低温 □異常多雨 ×異常少雨
異常高温・低温は標準偏差の1.83倍を超える場合、異常多雨・少雨は降水5分位値が6及び0。